



まちだ雑学大学と老舗ひじかた園が特別展示”Carnaval RIO”リオのカーニバル展『地上最大の祝祭は、何故リオデジャネイロにあるのか?』を開催します。

ブラジル文化の紹介者・実際の先駆者であるKTa☆brasil (ケイタブラジル)が29年間の活動の中でとらえ続けてきた地上最大の祝祭「リオのカーニバル」。本場リオのパレードリーグに、名門サンバチームImpério Serrano他で長年採点対象打楽器奏者として出場するだけでなく、様々なメディアのレポーターを務め撮影した写真の中から、今展示では、リオのカーニバルの持つ「圧倒的なエネルギー」、「奇想天外な発想によるヴィジュアル」、熱狂の中であって、「ひときわ輝きを放つ人々の表情」に注目し展示を行います。日本の常識をと発想を打ち破る、圧倒的なリオのカーニバルの世界観を体感して下さい。

会期：2025年9月6日（土）～9月19日（金） 休館日：水曜
開場時間：12:00～18:00 ※本人在廊時～20:00 観覧料：無料



会場：老舗ひじかた園 2F サロン

<https://www.hijikataen.com/>

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目3-6

アクセス：

小田急線「町田」駅 西口改札：400m 徒歩6分

JR横浜線「町田」駅 ターミナル口改札口：100m 徒歩2分弱



後援：
駐日ブラジル連邦共和国大使館
@brasembtokyo



協力：
Império Serrano Japão
(インペリオ・セハーノ・ジャパオン)

<https://machidazatsugaku.amebaownd.com/>



日本ブラジル友好交流年記念公式事業



Cultural Section | 文化部
Embassy of Brazil | ブラジル大使館
Instituto Guimarães Rosa
ギマランイス・ローザ文化院

cultural.toquio@itamaraty.gov.br



KTa☆brasil (ケイタブラジル)

先祖代々、原町田に所縁。打楽器奏者、DJ、プレゼンター。
Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100」に選出他選抜、受賞歴がある。1997年よりリオのカルナヴァルをはじめブラジル各地での活動を開始。音楽家として活動しつつ、日本にリアルな実践関係の一次情報を日本に伝え続ける稀有な存在。
JTB、ブラジル政府観光局、リオ市公式レポーター・写真家を長年務め、数多くのメディアに文書・写真を寄稿・出演。
展示はNikon Plaza(2019)、外務省所管 JICA(2020-21)など。
音楽制作/LIVEの実績は、三浦大知やSimon Le Bon(Duran Duran)をはじめ幅広く、各国に音源があり、世界各地で出演。
ブラジルではSambaの本場リオの名門、Império Serranoの打楽器奏者(採点対象)を経て公式指導者および日本代表に認定され、「毎年、現地LIVEシーン、本場リオのカルナヴァル、ブラジルのTV、ラジオ、新聞、映画などに登場し続ける唯一の日本人 ミュージシャン」として知られる。 長年の活動はブラジル主要メディアで単独特集多数・ドキュメンタリー化。
『A Zona Norte É A Minha Praia』監督:Roberto Berliner 命名した共著書に『リオデジャネイロという生き方』(双葉社)や【ブラジルの歴史を知るための 50章】(明石書店)も本文だけでなく表紙の写真も担当。『地球の歩き方 横浜市』(学研)など写真・文章の寄稿実績は多数。打楽器指導クラスはメンバー募集中。ATHLETAよりブラジルデザインのウェアをリリース。



<https://keita-brasil.themedia.jp/>

地上最大の祝祭は 何故リオデジャネイロにあるのか？ (上)



KTa ☆ brasil
(ケイタブラジル)

駐日ブラジル大使館に後援をいただき▶9月6日(土)～9月19日(金)【地上最大の祝祭は何故リオデジャネイロにあるのか？】と題した写真展を開催させていただく(一部動画も)。日本・ブラジル両国政府による、日本ブラジル友好交流年(外交関係樹立130周年)公式事業に登録いただき、各局番組での取材も次々に決まっている。

これはリオのカルナヴァルでリオ市観光局 Riotur 公式カメラマン・ジャーナリストとして長年撮影して来た写真の展示だ。Nikon Plaza(銀座・名古屋)、JICA 地球ひろば(名古屋)に続いて自身4回目。リオのカルナヴァルの鮮やかで細かな表情、ダイナミックで奇想天外な場面、歴史的なディティールやテーマの意味、表層ではなく、その奥にある融貫的フィロソフィーを共有したい。オファーをいただければ日本全国、海外でも展示できたら幸いだ。

期間中▶9月7日(日曜)はブラジル独立記念日当日を祝い、“まちだ雑学大学”の講演として同写真展内にて『リオのカルナヴァル、サンバ文化、打楽器史(実演)、ブラジル史』に関して2時間の講演をする。先着順申込制メ切となっているので▶QRコードよりお早めにお申し込み下さい。講演は29年に渡るブラジル現地での活動からの“一次情報”が基本。NHKをはじめ数々の番組で、Yahoo! ニュースをはじめ様々な有名ネットメディアで、週刊新潮～an-an まで凡ゆる有名誌で、日本人として最多数・最長期間、現地リオのレポートを積み重ねてきた。

カメラマン自身が“採点対象で出場”する側。他のエスコラの出場者たちとも長年の関係があり、今年も現地生放送番組で単独特集され、また日本メディアへの現地レポーターも務めた、筆者の写真展だ。書籍『ブラジルの歴史を知るための50章』(明石書店)では41章に“カーニバルに象徴されるブラジル性—移民・奴隷解放・混血の先に生み出されたブラジルの真髄”を寄稿した。共著書『リオデジャネイロという生き方』(双葉社)、『21世紀ブラジル音楽ガイド』(Pヴァイン)、『GLOCAL BEATS』(CDジャーナル社)、『SAMBA』(シンコーミュージック)、『地球の歩き方 横浜市』(学研)の他にも、ネットには無い、本邦初の一次情報を多数寄稿、長年お伝えし続けて来たので是非ともチェックしていただきたい。先日81.3FM J-WAVEの生放送番組 People's Roasteryのコーナー「バイブス人類学」に出演した。多文化共生が求められるグローバル時代に、ブラジル・サンバ・カルナヴァル文化は、多様性とコミュニケーション文化の象徴であり、問題解決型のヒントとして、日本でも注目・理解・導入度が高まっていく事を願う。

日本マテ茶協会40周年

写真展の開催場所は老舗茶屋「ひじかた園」東京都町田市原町田4丁目3-6(町田駅前4分)。江戸時代より続く老舗ひじかた園の2Fサロンでお茶をお楽しみいただきながら鑑賞できる。会場は幕末にシュリーマンやフェリーチェ・ベアトも宿泊した旅籠であった茶屋だ。江戸幕府の外語文書翻訳・調査・教育機関＝^{ばんしよしらべしよ}“蕃書調所”は現在の東京大学と、ポルトガル語学科でも知られる東京外国語大学の前身である。蕃書調所の調所組頭(現在の東大総長にあたる)で、幕府の近代化を推し進めた事で知られる幕臣：^{ましもばんすう}真下晩松との所縁でも知られる原町田の吉田屋と武蔵屋を前身とする由緒がある。ちなみに、日本ブラジル中央協会3代会長を務めた徳川頼貞はブラジル国家勲章を受勲したが、その伯父、徳川宗家第16代当主：徳川家達は将軍4代に仕えた真下晩松の功績を称えた碑の篆額を書いた関係にある。明治には教育者として人材を育成・輩出した真下晩松の“融貫塾”が武蔵屋の中にあり、その茶屋であった武蔵園が“ひじかた園”となった。真下晩松の子孫もブラジルへと渡り、日伯間の様々な事業に従事している。現在の町田駅前で絹の道と鎌倉街道が交差する歴史的な市場町“原町田”を代表する、文化的な老舗での開催に身が引き締まる思いだ。でも、なぜ老舗茶屋でブラジルを？と思われる方もいらっしゃるだろう。実は“老舗ひじかた園”は、日本マテ茶協会創立メンバー。南米アルゼンチン、パラグアイ産はもとより、ブラジル産のマテ茶とその茶具(クイアやボンバ)を1985年から40年にわたり取り扱う、日本におけるマテ茶界の草分けの老舗。マテ茶通の方々には既に全国的に有名な存在なのだ。リオのカルナヴァルと共に、マテ茶の深遠なる世界も同時に味わいながら、お楽しみいただきたい。



写真展

●期間：
9月6日(土)～
9月19日(金)
12:00-18:00
本人在廊時は20:00まで
入場無料

※9/10と9/17の
水曜日は休廊です。

●9/7(日)同講演会：
お申込制先着順メ切。
お早めどうぞ。



●9/7(日)同講演会

▶machida.zatsugaku@gmail.com

参加費：1,000円お茶付、13:30開場、14:00～16:00講演
16:00～懇親会、1,000円飲食付

まちだ雑学大学



— 9月7日（日）講座 第136回 —

リオのカルナヴァル：採点対象出場演奏者・公式カメラマン

Newsweek 誌「世界が尊敬する日本人 100」選出

KTa☆brasil（ケイタブラジル）氏

地上最大の祝祭は何故
リオデジャネイロにあるのか？

リオのカーニバル展 KTa☆brasil（ケイタブラジル）

● まちだ雑学大学 問い合わせ/予約 machida.zatsugaku@gmail.com ☎ 090-2319-7833

